

第 1 回 こども会議 実施報告

1 会議概要

日 時：令和 8 年 5 月 3 1 日（日） 午後 2 時～午後 4 時

会 場：青梅市福祉センター 2 階会議室

対 象：中学生、高校生等

2 会議の内容・様子

当日は、申込者 14 名のうち、9 名が会議に参加した。A グループ（5 名）と B グループ（4 名）の 2 グループにわけ、それぞれにファシリテーターを 1 名ずつ配置した。ファシリテーターは、N P O 法人フリースペースロビンソンの津村氏、青梅市こども・子育て会議の市民委員の中村氏に依頼した。

会議では、まずこども施策推進係の岡崎係長より、「こどもの権利について」、「こども会議について」の説明を行った。こどもの権利の重要性やなぜこども基本条例を制定するのか、こども会議とは何かについて説明した。次にグループワークに移行し、「子どもの権利について守られていること・守られていないこと」について、グループごとに意見を出し合ってもらった。「いいねシール」の制度を導入し、他人の意見に共感できる場合には、その意見に丸いシールを貼ってもらった。また、別グループの意見も見てもらい、様々な意見に触れてもらった。

グループワークのまとめとして、各グループで 1 つ意見を深掘りしてもらい、発表を行った。

最後に、河辺駅周辺に設置予定の「こどもの居場所」について意見を出してもらった。各々が欲しいもの、必要なものを自由に記載していた。

参加していた子どもたちは、互いに積極的にコミュニケーションを取り合い、和気あいあいとグループワークに取り組んでいた。日頃の不満等、普段言えないようなことも吐き出している様子だった。会議終了後には、互いに SNS のアカウントを交換し合い、集合写真も撮影していた。次回会議でも活発な議論を望む一方、追加の参加者を募り、よりよい会議にしていきたい。

3 会議意見まとめ

【質問】

- (1) 子どもの権利を学んでみて、自分・身のまわり・青梅市などで満足している事や不満に感じる事は？
- (2) 子どもの権利についてもし、こんなことがあったらいいなあとかよくないなあということとは？
- (3) (1) と (2) の現状…どのようになればいいと思う？

【回答】

(遊び場・居場所について)

- のびのび休んだり遊ぶ場所、公園などがある。
- 遊ぶ場所がほぼない（電車とかで遠出する必要がある）
- 公園でボール遊びが出来ない。
- こどもが学校や家などの居場所しかない。
- 室内でテーブルといすがある無料の遊び場が少ない。…話したり、ボードゲームしたり。
- たまり場…こどもが自発的に集まれる、夜とかストレス感じた時にフラッと行ける場所。
- 大人目からなるべく離れられる居場所がない。

(学校・教育について)

- 小学生のときの通学のときに見守りをしてくれて安心して学校へ行けたこと。
- 文化や芸術に積極的に触れられる機会が多くあったらいいと思う。スポーツなどは多くあるのでその他の分野でも同じようにあったらこどもの可能性が広がるのでは？
- 郷土資料博物館を閉館して自然史を学ばせてほしい。
- 教育を受けられる場所が増えたり、こどもが安心して通い続けられる場所を増やす。
- 学校での成績だけでなく、自主的な課外活動を加味した進学をした方がいいと考える。
- みんなの前で発表するのが苦手で発表したくないのに発表しな

いと評価に入らない。

- 校則を変えることにに関して市で統一してほしい。(髪が肩にしたらしぼる、先生はよくて生徒はいけない) … こどもが納得する答えを。
- 学校の校則が厳しい。(髪の毛をしぼるとか) 校則より法律違反を取りしまればいいのに。
- 学校でルールを破っている人がいて、周りの人の安全が保たれていない。(タバコ、酒)
- 修学旅行のお風呂、学校のプール別 (男女)
- 中学校のとき不登校の人多かったので、自由に教育を受けれるべき。
- 30日以上休まないと不登校扱いにならなくてフリースペースなどが出席扱いにならない。(中学校)
- 塾などの習い事をしたかったけどお金が高くて行けなかった。

(青梅市について)

- 河辺駅の南口の交差点で立ち止まる人が少ない。
- 未成年飲酒、たばこの購入ができてしまうこと。
- タバコのポイ捨てや川の周りにゴミがそのままにされている。
- 川の周りがきれいになりこどもがもっと自然に触れ合える。
- 道がきれいになる。
- 街をきれいにしたい。
- 暴走族をとりしめる。

(生活について)

- ルッキズム。
- 自由だけど、自分の意見を聞いてもらえない時がある。
- 大人に意見をいうにはグレるしかない。
- 形式的に言うてくるのが嫌。
- 表現を抑圧されるのがよくない。
- こどもたちをちゃんと見れてない大人がときどき見られる。
- あなたのためと言って、こどもの選択肢を潰されそうになった。

- こどものプライバシーが守られ、大人が管理者とならず、保護者となるべきであると考えている。
- こどもが芸術的な活動を自由にする環境がないので、支援を行うべきだと感じている。
- こどもがやりたいことをやれるように。

【質問】

河辺駅周辺のこどもの居場所についてほしいものは？

【回答】

- Wifi 自由に使える場所
- コンセント
- USB ハブ
- 充電器
- 机
- イス
- ソファ
- 冷暖房
- 個室
- 音楽スタジオ
- 防音室（欲を言えばカラオケ）
- 工作や絵、音楽（楽器）などが自由にできるところ
- レストラン（友達とご飯をたべながらお話できる場所）
- 店（スタバとかミスト）
- 小さいディズニーのような遊び場
- ラウンドワン（的な場所）
- ボーリング場
- 入り組んでる構造
- パーテーション
- 顕微鏡
- 参考書（過去問）

第 1 回若者会議 実施報告

1 会議概要

日 時：令和 8 年 6 月 1 6 日（火）午後 7 時 3 0 分～9 時 3 0 分

会 場：青梅市役所 2 階会議室

対 象：1 8 ～ 2 9 歳の若者

2 会議の内容・様子

会議には、申込者 7 名のうち 6 名が参加した。参加者は、1 8 歳の大学生から 2 5 歳社会人までの幅広い年齢に参加いただいた。グループを 3 名ずつの 2 グループに分け会議を進めた。

会議では、まず「こどもの権利」についてや「若者会議とは何か」について説明を行った。また、こども会議での意見や青梅市のこどもを取り巻く現状について、データを用いて解説した。

次にグループワークを行い、「①子どもの権利について、大切だと思うこと、守られている・守られていないことは？」、「②子どもの権利を保障するためにはどのような人・団体等が何をすればよいと思いますか。」のテーマについて話し合ってもらった。若者会議でも「いいねシール」の制度を導入した。グループワークの最後には、各グループから発表を行い、互いの意見について共有し合った。

会議の最後には、河辺駅周辺に設置予定のこどもの居場所について、意見を出してもらった。

第 1 回若者会議では、参加者それぞれが用紙いっぱいに関心した意見を記入しており、様々な意見が飛び交った。第 2 回会議では、会議参加メンバーが、当初の予定より少ないので、追加のメンバーを募ることが課題となる。

3 会議意見まとめ

【質問1】

子どもの権利について、大切だと思うこと、守られている・守られていないことは？

【回答】

- 失敗してもやり直せる権利（生存と発達の権利より）
- 楽しいことも、失敗も、経験としてとらえられるような教育（豊かですこやかに育つ権利）
- 教育を受ける権利は他国と比べて守られていると思う、義務教育で中学校まで学べる。また無償化や奨学金など、支援がある。（見つければ）（豊かですこやかに育つ権利）
- こどもが遊ぶことのできる時間がとても減少している、学校が終わってすぐ塾や習い事に行っている、本人の能力や学力は向上しても、笑顔が少なく感じる（？）（その他）
- 休息、余暇、遊び、文化への権利（楽しく遊ぶ権利）
- こどもらしく遊ぶことのできる権利→暑すぎ！
- 親と子の存在意義について考える、親子関係（自分の利益が守られる）
- 相談場所の認知、拡大（安心して生きる権利）
- やりたいこと、夢が否定されない権利（子どもの意見表明の尊重）
- 学びたい事を自由に選択できる権利（教育への権利）
- こどもが、自分の意見を発することが可能であると実感できると（意見を言う参加する権利）
- 自分のもつ意見を言っても認めてもらえない、聞いてもらえないことが多い。（校則、進路など）「自分の事だから」と言いつつ、お金や世間体など保護者等の意見が入る（意見を言う参加する権利）
- 意見を言う機会や認めてもらうことがこどもの頃に多いほど、大人になっても意見をもつ、言うことができる。否定されることがトラウマになると、意見を言うのが苦手になる。（意見を言う参加する権利）
- 自分らしく生きること、遊ぶこと、学ぶこと、食べて寝ること、

選択できること（大切だと思うこと）

- 教育を受ける権利、生存と発達の権利、選択肢の多さ、差別の禁止、表現の自由、体罰（虐待）（守られていること）
- 意見を言う権利、外遊びの機会、こどもらしくいること、プライバシーの権利（守られていないこと）

【質問 2】

【質問 1】の子どもの権利を保障するためにはどのような人・団体等が何をすればよいと思いますか？

【回答】

- 乳幼児期の健診の際に条約、条例について知る・知らせる。
- 保護者会でパンフレットを配布する。
- こどもを教育する大人（親・学校の先生）が、こどもそれぞれが魅力や自分らしさを尊重できるようになる。
- 学校教育において、マイノリティーな回答をするこどもを押さえつけるのではなく、理解し共感できるようにする。
- 学校など、教育の段階において、自らの意見が大人に対して対等に受け入れられたと感じる環境づくりをする。
- 校則を変更することのできるプロセスをつくる。
- 市や学校が挑戦する大切さを一緒に考える。その挑戦に危険が及ばない、安全な挑戦。
- 習い事基準法（仮）
- 市が姉妹都市など関わりのある諸外国をもっとアピールする。
- 年代、世代にあわせて交流の場をつくる。）
- おはやし団体の学校訪問。（伝統や文化に触れる機会をつくる）
- 梅の植林、梅ジュース。
- 否定されない空間がある。
- 数値化を減らす。
- たまぐー、神パークを河辺にほしい。
- 室内（体を動かせる）←地方行政・NPO、学校の近く

- 桜株公園の遊具。
- 児童館がほしい。
- 児童館でこどもを預かる。
- 児童相談所のセカンドオピニオン。
- 学校及び教育関係者
 - こども一人一人を個人として、主体として捉える。
- 地方行政
 - 意見を出し合う場が発表する場を設ける。

【質問】

河辺駅周辺のこどもの居場所についてほしいものは？

【回答】

- ななめの関係の大人（親や教師、上司などの「縦の関係」でもなく、友人や同僚のような「横の関係」でもない、直接的な利害関係がない第三者との関係性）
- ぐち言う場所
- うるさい大人がいない空間
- 大学
- 自習室
- こどもだけで借りられる空間
- アミューズメントパーク
- 映画館（こどもは、半額チケット購入できます！）
- 1つの施設（敷地）に勉強、遊び場など様々なジャンルの場
- スポッチャ、ボーリング
- ボール遊びしたい（高いネット）
- カフェ（スタバ）
- ミストとサーティーワン
- 200円食堂：メニュー…イタリアン、中華、日本食すべてあり
- 青梅の宮下パーク
- ログハウス

- ただただ広い原っぱ
- プール（室内）
- 噴水のある公園（夏に水遊びしたい）
- 泥遊びできる場所、シャワー
- 超長いすべり台
- ブルーベリー狩りとか果樹園
- レクリエーション広場（こどもたちのやりたいスポーツ、芸術活動を投票して決める！）
- コンセント、充電器
- ボードゲーム
- マンガ
- 夜遅くまで空いていてほしい（小スペースは24時間空いている）

第 1 回市民会議 実施報告

1 会議概要

日 時：令和 8 年 6 月 2 4 日（水）午後 7 時 3 0 分～9 時 3 0 分

会 場：青梅市役所 2 階会議室

対 象：3 0 歳以上の方

2 会議の内容・様子

市民会議は、申し込み 1 9 名のうち、1 5 名が参加した。グループを 4 つに分け、会議を実施した。

会議では、「子どもの権利条約」、「青梅市のこどもを取り巻く状況について」、「（仮称）青梅市こども基本条例ができるまで」、「こども会議・若者会議」についての説明を行った。

次に、「こどもの権利について大切だと思うこと」についてグループで話し合ってもらった。参加者たちは、こども関係に従事している方が多く、各視点からの意見をいただいた。グループワークの最後には発表を行い、各グループの意見を共有した。

会議の最後に河辺駅周辺に設置予定のこどもの居場所についての意見をいただいた。

次回会議は、7 月 2 4 日（月）午後 7 時からである。今回出た意見やこども会議、若者会議の意見を集約し、条例の前文・条文にどのように反映させるのかを考えなければならない。

3 会議後意見まとめ

【質問】

- (1) こどもの権利について、大切だと思う事、守られている・守られていないことは？
- (2) (1) のこどもの権利を保障するためにはどのような人・団体・施設等が何をすれば、また、どのようになればよいと思いますか？

【回答】

○子どもの権利を知る事

→学校で教える。地域で学ぶ。

○こどもが権利を知ること（保障し合うものだよー）

→自分だけにあるものでも、相手だけにあるものでもない、こども同士大人同士

→こども達が幼少期から、子どもの権利について学べること。今の大人も学んできていないから、大人達も学ぶこと。生活の中にちりばめられているような状態。

○大人の都合が優先されがち

→学校や家庭では、大人が予定や計画をたてているが、こどもの意見を取りあげた方がいい。良い結果を求める大人たちを減らす。何でもないことを褒められるように大人たちのしゃべり場も必要と考える。

○孤立している子どもをなくす

→家庭、学校、地域でひとりぼっちのこどもをつくらない。街で会った時は大人はこどもに声をかける。こどもはできるだけ返事をする。挨拶を通じて、元気安心安全笑顔の絆をつくる。

○安心して生きる（生命、心身共に健やか）

→親が難しい場合も、そばにいる大人の対応で希望につながることも。意見表明権にもつながるが、いろんなところに大人がちゃんといることが大切。いくつものセーフティネットが重なっていればどこかにつながる。

○個々で持ち味、特性はちがうと認め合うこと

→「同じことをしなければならない」という日本の教育その者を見直すこと。

教育する側のスキルアップと連携。教育予算増。

○健康と安全、差別なし

→心の健康、体の健康、安全を見逃さない、大人のゆとり、専門性、連携、障がい等でがまんすることない社会のつながり、心のバリアフリー社会。

○2条：「差別の禁止」・23条：「障害のある子どもの権利」

→病気などをもつこどもの意見を尊重し、疎外感を感じさせないまちづくり。

○実はこどもが好きで大切に思っている人は多い

→こどものことを考えて動く人、団体が情報共有できる場。こどものための団体の情報発信がこどもに届くような仕組みづくり。

○こどもを尊重すること

→学びの場を学区の学校に指定してほしい。自治体の他に不登校の居場所をつくる。大人が学ぶこと。（学校や地域で会を開く）

○こどもの気持ちが尊重される

→こどもが安心して過ごせる環境。（家庭、学校、地域で）自分の気持ちを自分で感じられることが大切。

○こどものやりたいことが選べる、できる

→どうしたらやりたいことができるのか。一緒に考えてくれる大人。やりたいことを否定されない環境。

○こどもが自分の意見を聴かれた（聴いてもらえた）と実感できること

→学校、家庭、オンブズマンなどの第三者など。あらゆるところでの工夫が必要。

○こどもの考え、意見を聞いてもらえる場が少ない

→こどもの意見に耳をかたむける時間・場所が地域に増えるとよい。大人だけが集まって決めるものが多く、地域のことを話し合うのにこどもを交えても良いのではと思う事が多々ある。

○自分の意見、考えを伝えられる環境づくりが大切だと思う

→意見を伝えられるツール、ご意見箱的なものの設置。意見を聞き

てくれる人、場所、仕組み作り。意見を言わなくても良い状態、状況もあり。

○こどもの話を聴く

→こどもの話をこどもを尊重して聴ける人材、場所、時間

○自分の気持ちを言う、表現する

→表現をうけとめる、大人の存在。大人がそのことを大切だと思う。

○自分の意見を言う事

→自分のことを知る事。自分の考えや意見を言うことに慣れていないのでこども会議等。

○こどもが安心して安全に自分の意見を言える、意見の表明

→親：こどもの権利について知る場所。

学校の先生（特に小学校）：もっと学習する。

こども：誰にでもその権利があるという事を知る。教えてくれる場所。

○こどもの将来・未来・こどもの気持ち（こどもを尊重する）

→選択肢を増やす。学校が選べる（行くか行かないかも）。少人数制とか多人数がいいとか。居場所が東西南北にほしい。縦割りの行政や予算UP。

→大人が責任をとる

○こどもの声は届きにくい

→否定しないで聞いてくれる大人の存在。声を届けるしくみを作って知らせる。（困ったことや疑問に思うこととか）、いろんな機関の連携。

○ぼんやりすること、ダラダラする暇がない

→学校などに拘束される時間が長すぎるかも。宿題とかなくす。「やらなければならない」ことをなくす。ぼーっとしている子を我慢して見ていられる大人が増える。将来を心配しなくてよくなる。

○休息・余暇・あそび・文化（子ども権利条約3条）

→あそべる（場所・人）。ぼーっと。文化、人に出会う。休みがある。自由裁量。

○休息、余暇が守られていない。そもそも休息、余暇の意味を知らない

→こどもの頃から人権教育。世代がまわっていくこと。

○あそぶ権利が保障されること（あたりまえのようで意外と難しい現実）

→暑さで外で遊ぶのも制限される…こどもが自分で気楽に遊びに行ける距離に屋内施設が必要。集団で遊んだり、冒険要素の遊びができるための大人や場所。遊びながら、いろんな人と場を共有することをこどもも覚える。

○小学生および幼児がアクティブに遊べる場所

→地区の運動公園をもう少しオープンに活用できないか？市内に室内プールの設置。

○文化、芸術に触れる機会を多く

→市民ホールがあれば触れる機会が多くなる。地域の文化に興味を持てるようになるには？色々な地元の方々との交流。

○学校教育

→国が根本的な方向転換。

○19条：「虐待・放任からの保護」・28条：「教育を受ける権利」

→保護者や教職員の安心安全を守ること、こどもの安心安全が守られる

○下校時の防災無線を使った放送

→低学年も地域も安心感があってよいが、高学年の子は授業中に放送されるのがイヤだと話していた。1日に2回放送があっても良いのでは？自治体できる。

○自分が大人になったときにどんな街・地域になってほしいか

→学校や市役所など、こどもたちのビジョンをたくさん聞く場をつくる、増やす。

○やりたいことをおうちの経済状況とか無理解とかであきらめる

○選択肢を知ること

→色んな人、考えに触れる機会を増やす。

○こどもたちが判断することのできる社会・教育

→こども時代に培うことの大切なこと。自分で動く、触る、体験する、触れ合うなどの場、相手、時間の確保。豊かな児童館。

○教育、不登校の子が教育を受けられないのでは？

→小学校、中学校が選べるといいのではないかと。自分に合った学校があると不登校も減り、教育を受けられる。そのためにはそれぞれの小学校、中学校が特色のある学校にすると良いと思う。教員を増やす。1クラスの人数が多すぎるため、担任が見きれない。教員1名につき児童10名くらいにすれば細かく見られると思う。

○競争原理が強すぎる

→社会的な規制をする。

○生活の支援（経験の偏り）

→色々な経験が無料または、安価で体験できるようになると良いなと。「国全体でこどもを育てる」という意識に。

【質問】

河辺駅周辺のこどもの居場所についてほしいもの

【回答】

○児童館としての役割を持たせた施設

→こどもたちが安全・安心して過ごせる場所として適切な人の配置が必要です。こどもたちは、心の安らぎを求めて来るのだから、施設ではなく話を聞いてくれる人の配置が必要です。手芸部や囲碁、やりたいことができる場所、おいしい食事が出来る場所、そんな施設になるといいな！！

○居場所かどうかを決めるのは本人なので、何を保証する場などのコンセプトがあったらよいな。何の権利を保障する場なのか？

○その場所に何があったらいいか、どんな風に過ごしたいか、こどもと一緒に考えていく。ルール（や運営）もこどもと決めるのはいかがでしょうか？そこができてから、そこに関わる人（団体や企業）で雰囲気が大きく変わるので、こどもと一緒に考えたものに合う人が良いかと…。（管理する人ではない気がする…）

○好きに落書き出来るようなボードか壁

○大声を出して好きに会話してもいい空間。

- 防音でバンドの練習など出来る場
- 音が出せる
- 個室（何人かで利用できる）があったり、大部屋があったり
- 自由スペース
- ワンルームではないこと
- ボードゲームカフェのようなもの
- 若者じゃない大人に意見を伝えやすいような掲示板？目安箱？
- ひとりで行ってもいい
- いつ行ってもいい
- 長い時間いられて何をしてもいい
- 食べ物がある
- こどもの安全・安心を守る人材がいる
- 広い場所と狭いスペースがいろいろある
- 1人にもなれる
- 多くの人と何か出来る広さ
- 24時間365日休まず空いている
- Wi-Fi環境であるが個々が使うだけではなく、皆でプログラミングなど出来る場
- AI、ITにふれる場（最新のテクノロジー）
- 青梅をIT人材輩出の町にしてほしい。CorderDojo 青梅に未来のエースがたくさんいます！（将来青梅出身、青梅が育てた！と言えるように！）
- コンビニ
- 軽食
- 飲食できるスペース
- 安く提供してもらえるカフェ的なもの
- 夜でも行ける、おなか空いてたら食べられる
- ゴロンと横になれるスペース
- のんびりできる場所
- アナログゲームのコーナー
- ゲームスペース
- 若者ピアからカウンセリング的な感じのしゃべり場

- 自分たちのやってみたいことを実現できるようなグループ活動
- 対話の場。(自分が何を感じているか知れる、表現出来る、お互いを知れる)
- 仲間でおしゃべり
- 勉強スペース
- 人をダメにするクッション (名前がわからない・yogibo?)
- 身体を動かすスペース
- マンガ
- 20代のサラリーマンがリモートワーク (ワーケーション) できる場所
 - 飲み物、場所代無料、優秀な人が集まる仕掛け
- Amazonのボランティアの方々をうまく巻き込む!
- Amazon体験が出来る場所
- 見守る大人のスペース (wifi、電源)
- 若手 (20代) が交流する場、出会い、他地域から呼びたくなるような
 - キャリア、企業相談出来る。
- 出会いの場
- 月1回位の講座。ex)メイクについて、ファッションについて、バンド演奏について、イラスト、アニメーションづくり
- 話を聞いてくれる大人の常駐
- 利用者で運営委員会をつくる
- 自販機 (飲料、アイス、お菓子)
- 場所はさておき、こどもの居場所として考えると、個別スペース、相談相手、様々な情報などがあるといいかなと。中学生〜20代のこどもや若者にも是非聴いてみて頂けたらと思います。市内格差が減りますように…。
- 河辺駅に行くまでの交通費のフォローがないと行きたくても行けないこどもが出てくるのではないかと…。
- そもそも行くことが困難というか、時間がかかったり、安全面に不安が多くあるのではとも思う。
- ひとりでまったり

- 評価されない空間
- なにをしてもいい空間
- 管理されない場
- 悩みが話せる場
- お湯が出る、歌える、おせっかいなおばさん、性教育
- 年代別で分けられる場所。中学生が29才の大人がうじゃうじゃいるところに行きたいと思うわけがない！
- おおらかな大人（口出ししない）必要な相談、話し相手
→ 幼児、小学生のこどものことはどうなっているのですか？
- 大らかにこどもを見守れて、雑談できる大人